

府職労
第96回定期大会
12月20日(火) 9:00受付
エルおおさか南館5Fホール

府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2049号 2016年11月30日

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/小松 康則
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。



府職労結成70周年まつり No Union No Life

笑顔あふれる楽しい1日

元氣よく太鼓でオープニング



西谷さん、ヒロさんの対談



松元ヒロさんの爆笑ステージ



プロ顔負けの創作落語



1万個のカプラも大人気

お楽しみの大抽選会



白子さんのクラリネット演奏



70年の歴史展示も好評

11月13日、府職労は「結成70周年まつり」をマイドームおおさかで開催しました。

「まつり」は総勢700名の参加で大成功しました。当日は、村上人事局長や岸本人事委員会事務局次長、阿児府立病院機構事務次長、「大阪市を知り、考える市民の会」代表の中野雅司さんをはじめ、多くの住民団体や労働組合の来賓のみなさんにもご参加いただきました。

岸和田市職労の仲間の太鼓演奏でスタートし、有田委員長あいさつ、来賓あいさつ・紹介ののち、白子正樹さんのクラリネット演奏、松元ヒロさんのライブ、西谷文和さんとの対談など、多彩なステージ企画が続きました。また、落語やうたごえ、憲法の朗読など、組合員によるステージも大好評でした。

青年・若手4名が司会を務め元氣の出る「まつり」となり、参加者からは「手作り感がよかった」「若い人が活躍していた」「家族みんなで楽しめた」「さすが府職労」などの感想も寄せられています。
※「まつり」の詳細は「新年号」で紹介します。

府職労第96回定期大会

2016年12月20日(火)
9時受付開始
9時30分開会(17時終了予定)
エルおおさか南館5Fホール

今も未来も輝く社会を

府職労70周年記念事業おきなわ平和ツアー実行委員会

特別上映会&ツアー壮行会

スクリーンに叩きつける、伝えきれない沖縄。 **標的の村**

日時 12月10日(土) 10時より
ところ 大阪グリーン会館 2階ホール
参加費 無料(お気軽にご参加ください!)

お問い合わせ ☎06-6941-3079(内線3746)
メール: info@fusyokuro.gr.jp

沖縄に基地はいらない

沖縄県民の民意尊重、基地の押し付け撤回を

12.10おおさか総がかり集会

12月10日(土) 14時
扇町公園 JR環状線「天満駅」西へ徒歩3分、
地下鉄堺筋線「扇町駅」2号出口すぐ

集会後、パレード 中崎町コース・大阪市役所コース

この1年間、府職労は幅広い府民・労働者との共同を築き、やりがいのある仕事と働きやすい職場の実現をめざすとともに、戦争法反対や維新政治へのたたかいに全力をあげて奮闘してきました。また、結成70周年という節目の年を迎え「ともに学び、考え、行動する」という組合民主主義の原点を大切に活動を重ね、青年や女性の参加

2017年度運動方針は、データで発信する。同時に、各職場に1冊ずつ送付します(11月30日発送)。複数部数が必要な場合は、府職労本部までご連絡ください。なお、データ版の運動方針は、11月28日以降、府職労ホームページのトップページからダウンロードできます。



に重点を置いた運動を通じて、青年・若手・女性が大いに活躍しました。「今も未来も輝く社会をめざし、この間の経験や教訓を学び、いかした奮闘が求められています。安倍政権は、TPPの強行や戦争法の具体化、改憲、社会保障の全面改悪、安倍「働き方改革」など、悪政をいっそう加速させています。2016年の参議院選挙では、全国各地で野党共闘がすすみ、大きな前進をつくり出しています。「いまの政治がおかしい」と思っただけでは、現に向けて奮闘し、その声をあげ行動する、そう。

遊歩道

「浮雲朝露(ふうんちよろう)」という四字熟語があります。頼りなくはかななもの例えですが、私たちがまさにそうではないでしょうか。いろいろな経験をし、やりたいことも出てくると思います。しかし、時間は有限です。でも、この時間の使い方は、個人に与えられた最大の自由なのです。▼病氣などで時間を失うことがあり、場合によっては、生涯の時間を失うこともあります。これは、必ずしも個人の問題ではありません。▼大手の電通で、新入社員の高橋まつりさん(当時24歳)が過労自殺した問題は、会社の体質に大きな問題があったと言えます。これから社会を担う若人が、どうして命を絶たなければならなかったのでしょうか。▼若年層を取り巻く雇用の状況は、長時間労働や低賃金などにより、ますます厳しいものとなっています。もはや個人の力だけでは立ち行かない事態です。それぞれが職場について考え、全員が一致団結して働きやすい労働環境を確立する必要があります。そのためには皆さんの力が重要です。正しいことが正しく通る社会を目指して、一緒に頑張っていきたいと思います。(T)